

第1回 1990/12/01 企画の優れたアーバンスモールビル	第2回 1991/02/23 中期仮設建築	第3回 1991/05/11 横浜ライトアップ	第4回 1991/06/29 住まいを持つスモールビル	第5回 1991/08/31 イベントのためのショー空間	第6回 1991/11/13 アーバンビルにおける小空間	第7回 1992/01/25 都市の広場は今	第8回 1992/05/28 江戸川区のアーバンリゾートを体験する	第9回 1992/09/03 声楽家、見見路のある家、ネーサンハウス、私たちの家 一住宅見学会に遊学する	第10回 1992/10/06 新しい都市への模索 一地方文化の地誌づくりを見る	第11回 1993/02/18 海岸アーバンリゾート施設を見る	第12回 1993/07/28 変貌する多摩の新しい建築群 一行政企画 主導型の地域密着施設
HOUSE 5302 THE WALL COLLEZIONE WATARIUM	UNHEX NANI NANI PIRAMIDE 東京海鮮市場 カフェミスティック キークエストクラブ&スタジオ 東高現代美術館	GAZEBO、ROTUNDA、横浜美術館、 日本火災横浜ビル、人形の家、ヤマテヨットクラブ、テラス・ハック ペリー、風の塔	HERIOS、WEB、赤坂レジデンシャル オフィス、ストラーダ：青山 ファッションカレッジ、村上開新堂、 南青山内田ビル、FIK 南青山ビル、 ジャズクラブ ブルーノート	北沢タウンホール 津田ホール 全労災ホール：スペースゼロ アンダーチェーン 原宿クエストホール	東京都庁会議棟 千代田生命本社ビル センチュリータワー 新宿パークタワー トップハウス	葛西臨海水族館 ホテルシーサイド江戸川、文化センター 小松川境川親水公園 古川親水公園 平成庭園	飯山邸「声楽家の家」 風見鶏のある家 内井邸「ネーサンハウス」 林邸「私たちの家」	晴海客船ターミナル 晴海展示場（東京ガスアーバンエネルギーフェア） 水戸市立西部図書館 水戸市立芸術館 筑波センタービル内 筑波第一ホテル	スキーイング津田沼 ザ・マンハッタンホテル 東京ガス 幕張地域冷暖房施設 若洲海浜公園 夢の島マリナー	アミューズメントコンプレックス JTB FORESTA レストラン「LIBRE 多摩」 バルテノン多摩 ベルコリヌ南大沢	

第13回 1993/09/30 建築家の「市民」としての役割 一町田のまちづくり	第14回 1993/11/20 アーキテクト・マインドのある建築家たちの作品	第15回 1994/03/18 高齢者・障害者一建築家との接点	第16回 1994/06/15 世田谷区に見るデザイン性の高い地域コミュニティ施設	第17回 1994/11/29 『祈りの空間』一聖堂（チャペル）とその周辺の造形を探る	第18回 1995/06/28 地域と共に生きていく	第19回 1995/12/04 人と土、人と家、人とゴミ、人と情報、人と自然	第20回 1996/03/05 こだわりながら住まいつづける家	第21回 1996/09/18 集合住宅と豊かなパブリック・スペース	第22回 1996/12/09 学校を考える 一公立の小中学校
国際版画美術館 ホテル・ザ・エルシー 中央図書館 ひなた村 花の家	M.BUILDING 都市デザインセンター YKK R&D センター 佐田谷ヘルシービル 世田谷区 柏の葉公園・日本庭園茶室	都立心身障害者福祉センター 新宿区立障害者福祉センター 全国障害者福祉センター 都立社会福祉総合センター 世田谷ヘルシービル 佐藤邸 世田谷区立高齢者センター 新樹園	下馬地区会館 用賀区民集会所 世田谷美術館 船橋地区会館 宮坂地区会館 松沢出張所 区民フロアー	女子聖学院礼拝堂・聖堂棟 聖コロンバン会本部聖堂 ナザレ修道院 聖レゴリオの家聖堂	秦野市立図書館 鶴巻公民館 厚木精華園 山際児童館 老人憩いの家	ガスの科学館 東京国際展示場 テレコムセンター 台場フロンティアビル	白の家 松川 BOX 五反田の家	桜台コートビレッジ 宮崎台コートビレッジ 用賀Aフラット ラビンス	目黒区立 宮前小学校 世田谷区立 中町小学校 世田谷区立 玉川小学校 杉並区立 第十小学校 新宿区立 西戸小学校 新宿区立 落合中学校

第23回 1997/03/06 自然のスピリットが宿る家	第24回 1997/09/17 人間主体の感性に基づいた建築 一世田谷の住宅、あけぼの子どもの森公園の中の植物	第25回 1997/11/27 探訪都市の異空間：大使館、オフィスビル	第26回 1996/03/26 美しい和風空間とそれを支えるディテール	第27回 1998/05/28 新緑の軽井沢 吉村順三作品を訪ねて	第28回 1998/09/10 心に残る教会を訪ねて	第29回 1999/03/17 変化する教育の場
TH-1 CASA 松原の家 私の家	寺崎邸 あけぼの子どもの森公園内 「ムーミン屋敷、子ども劇場、森の家」	DHタワー スウェーデン大使館 カナダ大使館 TBS 放送センター	三越シルバーハウス 平成庭園 源心庵 幕張海浜公園茶室・松籟亭	カニンガム・ハーモニーハウス 柳田邸 吉村順三邸	12 聖イグナチオ教会 聖路加国際病院 東京キリストの教会	武蔵大学 千葉県立幕張総合高等学校 東京都立晴海総合高等学校

## JIA アーバントリップのご紹介



第30回 1999/09/09 高齢者施設を訪ねる	第31回 1999/11/13 著名建築家のご自宅を訪ねる 一時代を画した住宅	第32回 2000/03/16 システムと建築	第33回 2000/09/21 地方都市に建つ情報発信施設	第34回 2000/12/04 先端オフィスビル訪問一テクノロジーとエコロジー	第35回 2001/03/26 地域の景観に溶け込んだ住宅	第36回 2001/05/20 東京大学本郷キャンパスを覗く (歴史的建築物の保存と再生)	第37回 2001/10/31 池原義郎氏の建築を訪ねて	第38回 2002/03/01 都市における建築物再構築 一学校・病院・住宅	第39回 2002/07/11 児童・老人福祉施設を訪ねて	第40回 2002/10/31 都市の中に行き続ける近代建築
清遊の家 吉祥寺老人ホーム 戸花ホーム	清家邸 茶谷邸	東葛テクノプラザ 埼玉県立大学	太田市総合ふれあいセンター 埼玉環境科学国際センター 福川市民ホール	NTT 武蔵野研究開発センター NEC 玉川ルネッサンスシティー	トンネル住居（横河健氏自邸） 浦和の家 阿部勤氏自邸	東京大学 農学部弥生講堂 同工学部 1号館、2号館、6号館 同経済学部 安田講堂、総合研究博物館 戸原・丹下元岡教授の作品 前川國男氏作品 ほか	早稲田大学所沢キャンパス 榑水亭 西武園競輪場（所沢市） 池原義郎・建築設計事務所 前川國男氏作品 ほか	桐蔭学園メモリアルアカデミアム 川崎市立川崎病院 ZIG HOUSE / ZAG HOUSE	白金幼稚園 シルバーピアたまがわ 横浜市六ツ川地域ケアプラザ	駒沢給水塔 旧林愛作邸 駒澤大学講堂

第41回 2003/03/28 湘南の建築を訪ねて 一地域と建築の関わりについて	第42回 2003/07/03 都市に住む 集合住宅の新しい試み	第43回 2003/11/27 建築のシステムとスタイル	第44回 2004/03/04 「居心地の創り方」一環境、設備、記憶・時間、構造・素材など、様々なアプローチから生まれた個性的な空間を体験し、その機能・目的に見合った「居心地」を実感する。	第45回 2004/07/21 有名建築家と名建築のその後、又、伝統芸能を継承する為に移築された能舞台を尋ねて（設計者）に聞く	第46回 2004/11/10 建築家のイメージを実現するためのカーテンウォール専門技術者との共同作業を通して建築技術とデザイン、最新オフィスビルについての事例	第47回 2005/03/04 上総の国の建築を訪ねて（設計者）に聞く	第48回 2005/07/06 変貌する東京のオープンスペースをたずねて 一丸の内有楽町をめぐるハーフデイトリップ	第49回 2005/10/26 研究スペースの居住環境 一快適な空間がアイデアを生み出す	第50回 2006/03/08 湘南地方の建物 3題 一PFIによる建築、つくりを工夫した住宅	第51回 2006/06/20 原広司の建築を訪ねて
鎌倉市立御成小学校 ECOLE DE HAYAMA 地球環境戦略研究機関	東雲キャナルコート I 街区 東雲キャナルコート II 街区	東京国立博物館 法隆寺宝物館 都立戸花高等学校 東京カトリック神学院	カシカミ穀穀谷工場オフィス棟 ひろ美術館・東京 アイロニススペース	神奈川県立音楽堂 神奈川県立図書館 横浜能楽堂	新日軽船橋工場 (仮) 室町三井新館 新築工事現場 汐留住友ビル	MUSEUM fas it is かすざアカデミアホール 三菱ウェルファーマ かすざ研究所	丸の内オアゾ 丸の内北ビルディング 地域冷暖房プラント 丸の内 My Plaza 東京国際フォーラム	国立国語研究所 麻布大学 獣医臨床センター サントリー商品開発センター	鎌倉二階堂の家 神奈川県立保険福祉大学 神奈川県立近代美術館 葉山館	ヤマトインターナショナル 東京大学 生産技術研究所 東京大学 先端科学技術研究センター

第52回 2006/11/15 木質系ハイブリッド（集成材）の空間体現と製作過程の工場を訪ねて、また、木造資源の再生コンバージョンの実例を設計者に聞く	第53回 2007/03/07 環境技術と建築デザイン、最近の事例について	第54回 2007/08/02 人と環境に優しい都市型キャンパスと継承され活性化する町並みを体験する	第55回 2007/11/28 アントニン・レーモンドの建築を訪ねて	第56回 2008/03/25 時代を先導する最先端の大学図書館	第57回 2008/07/23 新しい施設を訪ねて 一環境、自然、創造、人の交流、使う楽しみ、提案型都市建築	第58回 2008/11/12 生まれ変わる都市 一都心におけるあらたなまちづくりのパラダイム	第59回 2009/01/28 建築家、横文彦氏と建築 横文彦氏と質問形式の対談	第60回 2009/06/01 文化を発信する個性的なホールを訪ねて	第61回 2009/11/28 地方都市からの教育、行政、住まいに対する情報発信を体験する	第62回 2010/02/24 湿然とした都市に展開するさまざま まな手法による最新建築環境
栃木県集成材協業組合 正田醤油 埼玉県立武道館	マブチモーター本社ビル ガスの科学館	大東文化大学 板橋キャンパス 川越の街並み&建物	群馬県立音楽センター 高崎哲学堂（旧井上邸） 立教大学 新座キャンパス (立教高校 聖パウロ礼拝堂・立教大学 新座キャンパス)	成蹊大学 情報図書館 多摩美術大学 図書館	ふじようちえん 福生市庁舎 武蔵工業大学 新建築学科棟 #4	赤坂サカス 東京ミッドタウン (21_21 DESIGN SIGHT) 政策研究大学院大学	ロレックス東陽町ビル 東京キリストの教会 ヒルサイドテラス・旧朝倉邸 ヒルサイドフォーラム	座・高円寺 武蔵野市吉祥寺シアター 日経ホール	学校法人太田国際学園 くんま国際アカデミー 栃木県庁舎 SUMIKA PROJECT by Tokyo Gas	コーセー王子研修センター 川本製作所 東京ビル

第63回 2010/06/30 今日のコンへの多様性と実り豊かな成果	第64回 2010/09/06 更新が続く学校施設の最新動向を見る	第65回 2011/03/02 都市と向き合う大使館	第66回 2011/11/11 ランドスケープデザイン・技術と建築デザインの関係を探る	第67回 2011/11/29 建築家 高橋誠一氏 60年の軌跡 「人・建築・都市」	第68回 2012/02/20 これからの建物再生のあり方について 事例を訪ねて	第69回 2012/06/15 「挑戦する建築、3事例を訪ねる」	X (エクストラ) 2012/6/30 東京工業大学 大岡山キャンパス見学会「緑豊かなキャンパスと地域性を探る」2012年度アーキテクツガーデン参加プログラム 東京工業大学付属新図書館、桜並木プロムナード、70周年記念講堂、事務局1号館、100年記念館、緑が丘1-3号館、環境エネルギー棟、ひょうたん池、イチョウ並木	第70回 2012/11/13 「公共施設の新たな創り方」 ～プロポーザル・市民参加型ワークショップ・環境配慮を経て～	第71回 2013/03/07 「復原・保存活用に見る近代、現代建築の手法」～積極的な解決方法を取り入れたJR東駅と国立国会図書館に観る～	第72回 2013/06/29 新しい大学キャンパスの創り方 ～中野再開発の場合～
立川市新庁舎 西川口キリスト教会 戸田市立戸原小学校	相模女子大学（マーガレット本館、マーガレットホール、体育館他） 神奈川県立工科大学 KAIT 工房 七沢希望の丘初等学校	イタリア文化会館 インド大使館・インド文化センター ベルギースクエア (ベルギー大使館、二番町センタービル)	大林組技術研究所 群馬県立館林美術館 / 多々良沼公園 立正大学 熊谷キャンパス	首都大学東京 図書館、国際交流館 全労災情報センター 清水建設技術研究所 安全安全館	千代田区立麹町中学校（改築） 千代田区立日比谷図書館（大規模改修）	ホキ美術館 ナチュラシーム 千葉市美浜文化ホール・保健福祉センター	ホキ美術館 ナチュラシーム 千葉市美浜文化ホール・保健福祉センター	町田市新庁舎 町田市文化施設・和光大学がプリホール鶴川 武蔵野プレイス（境南ふれあい広場公園）	旭硝子（株）AGC studio セミナールーム JR 東京駅 国立国会図書館	明治大学 平成京大

第73回 2013/11/23 古くて新しい素材： レンガ・テラコッタをグルメする	第74回 2014/03/15 窓をめぐる探検 光と熱と風とコミュニケーション	第75回 2014/08/07 池袋地域力 教育・文化の一翼を担う建築を訪ねる	第76回 2014/11/25 秋、世界文化遺産富士山の麓に展開する建築を訪ねる	第77回 2015/03/18 先進医療と癒しのための教育・診療の場学ぶ	第78回 2015/10/02 東京サレジオ学園を当時の設計担当者（大倉久明氏）が解説 阪田誠造氏と奥様を交えて討論会	第79回 2015/11/04 木材の流通拠点・清水に木材を使用した意匠を凝らし、木に期待する設計者の意図を探る	第80回 2016/03/04 使い続ける住宅事例を訪ねて	第81回 2016/06/13 新緑の軽井沢へ～自然の中にたたずみ、自然を楽しむ名建築を巡る	第82回 2016/11/30 アーティストと職人～技術と発想	第83回 2017/03/30 若手建築家による最新教会建築 3題を訪ねて
国際弘教学院大学 文京区立森岡外記念館 東洋文庫	飯坂図書館 ヤオコー美術館 大東文化大・東松山キャンパス	東京芸術劇場 立教大学 1号館 東京音楽大学 100周年記念本館	倫理研究所・富士高原研修所 ほうとう東 東恋路店 盲導犬総合センター	帝京大学医学部・薬学部校舎 成増高等看護学校	東京サレジオ学園	清水文化会館マリナート 日本基督教団 駿府教会 静岡県草薙総合運動場体育館（このはなアリーナ）	小石川の住宅（「私たちの家」改修） 上原通りの住宅	北澤アトリエ（旧レーモンド軽井沢スタジオ） 北野建設軽井沢営業所 Y邸 軽井沢千住博美術館	サニーヒルズ 岡本太郎記念館（旧自邸・アトリエ） 東京都庭園美術館	茅ヶ崎シオン・キリスト教会 湘南キリスト教会 東戸塚教会

第84回 2017/09/21 街並みを継承するかたち・新しい木質建築のかたち	第85回 2018/02/14 使い続ける住宅を訪ねて vol.2	第86回 2018/03/08 地方公共建築 / いまそこにある問題とその解決	第87回 2018/07/27 都市と建築 つなげる、つながる 建築	第88回 2018/10/10 八ヶ岳山麓に佇む建築 一建築と自然の融合を探る	第89回 2019/03/07 富士山麓に建つ建築を訪ねて Vol.2	第90回 2019/05/15 洗足学園音楽大学の特色ある建築群 一多様な設計者が奏でる洗足学園キャンパス協奏曲	第91回 2019/10/09 「虎ノ門・赤坂を歩く」一スモールオフィスから大型再開発オフィスまで	第92回 2020/10/22 「私の家」から清家 清を探る	第93回 2021/06/30 大井町駅前パブリックスペースハフォーカス
真壁伝承館 建築研究所「つくはC L T実験棟」 可化成工業つくばテクニカルセンター	塔の家 石津謙一郎邸 #38 松川ボックス（I 期）	川口市火葬施設・赤山歴史自然公園 大田市美術館・図書館 時間の倉庫（旧本庄商業銀行煉瓦倉庫）	港区立郷土歴史館等複合施設（ゆかしの社） 明治学院大学 白金キャンパス歴史建造物 YS BLD.（青木邸+集合住宅）	八ヶ岳高原音楽堂 サンカク 女神の森セントラルガーデン 小淵沢駅合築駅舎	静岡県富士山世界遺産センター むく保育園 ヴァンサン彫刻庭園美術館 ベルナル・ビュフェ美術館	シルバーマウンテン・eキューブ 前田ホール アンサンブルシティ ホワイトキャッスル ブラックホール 付属幼稚園	赤坂インターシティ AIR 虎ノ門ヒルズ（外構） 荒川ビル 赤坂センタービル	私の家	大井町駅前パブリックスペース

第94回 2022/03/29 「父の家」 建築家による親のための住まい	第95回 2022/09/21 「小さなものの無限性」 保坂猛が語るふたつの自邸	第96回 2022/12/03 林寛治「私の家」を語る	第97回 2023/02/26 日本のここらに遊ぶ	第98回 2023/08/21 いまま、学校はどうなっているか ～池袋地区に展開する新しい学校建築を見る～	第99回 2023/11/17 「所沢の新たなにぎわい空間と狭山湖畔の祈りの空間を散策する」 ～「ところざわクラタウン」と「狭山湖畔公園内3施設」を巡る1日トリップ～	第100回 2024/04/15 「ふたつの建物の物語―名作誕生の過程―」	第101回 2024/05/27 香山壽夫先生と建築作品を巡る パストラー「劇場・役場・教会～30年の歩み～」
父の家	LOVE HOUSE LOVE2 HOUSE	林寛治自邸	東山旧岸邸 とらや工房 富士カントリークラブ かんなみ仏の里美術館	豊昭学園 1号館 東京交通短期大学 豊昭学園 6号館 ラーニングセンター 豊島区立池袋本町小学校・池袋中学校（併設型小中連携校） 豊島区立池袋第一小学校	ところざわクラタウン 狭山湖畔公園管理休憩棟 狭山の森礼拝堂 森のささやき	学士会館 ハレスサイドビルディング 安田アトリエ	彩の国さいたま芸術劇場 聖学院大学 礼拝堂講堂 東京大学 伊藤国際学術研究センター 東京大学 弥生講堂一乗ホール 日本基督教団 本多記念教会

**JIA アーバントリップのご紹介**  
発行 公益社団法人日本建築家協会  
関東甲信越支部 アーバントリップ実行委員会  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館  
編集 赤川鉄哉（協力：蔵桑友美）  
発行日 2024年11月14日





## アーバントリップの概要

# 「アーバントリップ」= 建築見学会

日本建築家協会関東甲信越支部アーバントリップ実行委員会が主催する、首都圏を中心とした建築・ランドスケープ・まちなみを巡る建築見学会です。

## 講演会、座談会、シンポジウム

各回の見学会にはそれぞれテーマが設定され、そのテーマや見学建物にあわせ、理解や認識の深化のため建築家や研究者などによるセミナーや座談会なども同時に行っています。

## オンライン見学会

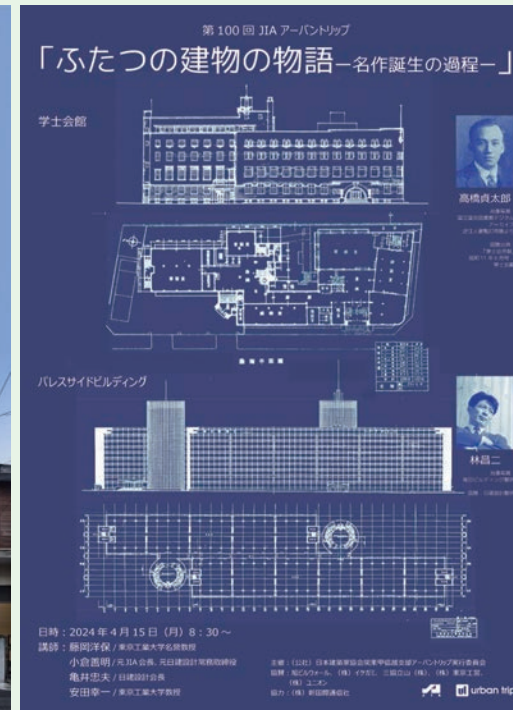
コロナウイルス感染拡大防止期間中は大勢での実の建物の見学はままならず、建物見学録画の放映と建築家へのインタビューなどを組み合わせた、ウェビナーによるセミナーを開催しました。



第93回「大井町駅前パブリックスペースヘフォーカス」  
(2021年6月30日 見学+シンポジウム)



第94回「父の家」建築家による親のための住まい  
(2022年3月29日 ウェビナー オンライン)



第100回「ふたつの建物の物語—名作誕生の過程—」  
(2024年4月15日 徒歩トリップ)



第101回 香山壽夫先生と建築作品を巡るバスツアー「劇場・学校・役場・教会〜30年の歩み〜」(2024年5月27日 バストリップ)

## 活動

## 見学紀行文、記録ビデオ

各回の見学会の様子が参加者の感想などは紀行文として JIA 関東甲信越支部の機関紙「Bulletin」に掲載されています。また、独自にホームビデオなどによる録画をおこない、編集の上、移動バスの車中などでそれらのビデオを上映するなどしてまいりました。亡くなられた著名建築家の生前の声なども記録されています。

## YouTube による発信

コロナ禍のなか開催した第92回のウェビナーを契機として、以降、積極的に見学会の様態などを YouTube に公開しています。(JIA 関東甲信越支部チャンネル)

## 地域会などとの連携

静岡や群馬など遠方への見学の際には、地域会の方々にもお声がけをし、参加を募り交流をはかっています。また、建築家や JIA の活動を広報する目的で行われた「アーキテクツガーデン」では、城南地域会とも連携しアーバントリップ X (エクストラ) なども開催しました。

## ミッション

## 資質、技術の向上

JIA 設立の目的のひとつとして、建築家の資質向上と業務改善をはかることにより、建築・環境の保全や建築文化の発展をととして公益に寄与するとされており、この「資質向上」を担う活動のひとつです。

## 啓発、普及、発展

一般の方々に、優れた建物や環境・景観などの見学体験をおし、建築家の存在意義や建築の文化的価値などを紹介し、建築への理解と建築文化の発展につくしています。

建築家憲章

(職能5項目に替えて)  
平成元年7月19日  
改訂平成16年5月26日  
改訂平成17年5月27日  
改訂平成30年6月26日

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

(創造行為)  
建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく創造行為として業務を行います。

(公正中立)  
建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公正中立な立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

(たゆみない研鑽)  
建築家は、たゆみない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。

(倫理の堅持)  
建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持します。

公益社団法人日本建築家協会 (JIA) 正会員は上記憲章のもとに集う建築家です。

## 足跡

## 1990年発足、34年経過、101回の見学会

バブル経済が華やかで、都市建築の建設が活発な1990年にアーバントリップは産声を上げました。当初は東京ガス様の手厚い支援を受け、参加費は無料で、東京ガスの招待客と JIA 会員が席を分け合う形でスタートしました。その後、バブル崩壊にともなう景気後退に従い、少しずつ支援も薄れ招待客も減っていき、東日本大震災の翌年には、残念ながらエネルギー会社のお立場から支援が打ち切られてしまいました。以降は別途スポンサーを募り、有料化をはかり、おかげさまで本年：2024年4月には100回を迎えることができました。

## 見学建物総数 約 360 件、参加者延べ人数 推計 5000 人

資料に記された第1回から第101回までの見学箇所を単純に累計すると356件となります。開催初期には一日に8件もの見学箇所が記載されているものもあり、外観のみの見学であったらと推測されるものも含まれますが、通常のバス利用トリップでは3〜4件の見学先を回っていたことも考え合わせれば、総数として違和感の少ない結果といえます。



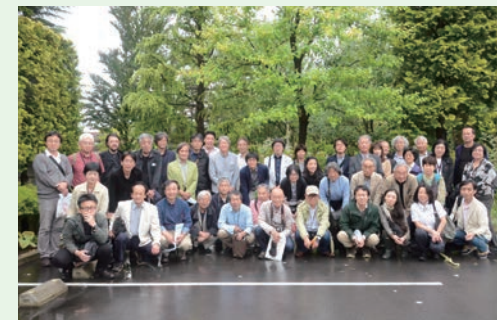
第27回「新緑の軽井沢吉村順三作品を訪ねて」  
(1998年5月28日)



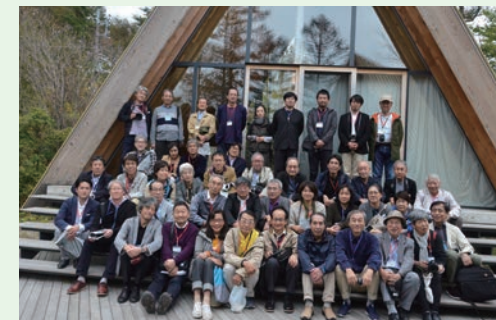
第35回「地域の景観に溶け込んだ住宅」  
(2001年3月26日)



第67回「建築家 高橋航一氏60年の軌跡『人・建築・都市』」  
(2011年11月29日)



第81回「新緑の軽井沢へー自然の中にたたずみ、自然を楽しむ名建築を巡る」(2016年6月13日)



第88回「八ヶ岳山麓に佇む建築〜建築と自然の融合を探る〜」  
(2018年10月10日)



第101回 香山壽夫先生と建築作品を巡るバスツアー「劇場・学校・役場・教会〜30年の歩み〜」(2024年5月27日)



## 生の声を聞く

「聞く見学会」とは、元委員長：西見高明の言。通常の建築見学会は建物を見るのが主体ですが、アーバントリップは、建築設計者をはじめ、施工者や施設関係者、名作住宅のオーナーなどから、「生の声」を聴くことができるめずらしい見学会です。

## 見られない建物を見る

美術館や劇場などの公共施設などであれば、一般の方々も建物を訪れることは可能で、その際に建物を見学することも同時に可能です。しかし、アーバントリップでは、幸いにも主催者が「JIA」であることに加え、建築家・設計者の協力もあり、大使館や葬祭場、収蔵庫や楽屋など、個人や一般の方々ではなかなか見学することができない施設、諸室なども見学することができています。

## 安価で充実

バス1台をチャーターすることにより、遠方の複数の見学箇所を効率的に見て回ることが可能となっています。また、首都圏での公共交通機関を用いたトリップについても、同様、移動には細心の注意を払い企画立案しています。有料化した2013年第72回以降も、スポンサーの開拓をはじめ、工夫と努力を重ね、ご参加いただく方にとって十分にリーズナブルとお考えいただけるよう努めています。

## 見学テーマに見る特色

### 時とともに

90年代初期には「アーバン」や「都市」をキーワードにしたものが多くあり、なかには「仮設建築」をテーマとしたものもあり、当時の建築界の気分や関心をうかがうことができます。1992年には国民生活白書で少子高齢化に対し警鐘が鳴らされますが、1994年第15回では「高齢者・障害者—建築家との接点—」と題し6つの障害者福祉施設などを見学し、以降いくどか高齢者福祉施設を見学しています。1997年には京都議定書が採択され、地球環境問題が広く認知されるようになりますが、2000年の第34回では「先端オフィスビル—テクノロジーとエコロジー—」とあり、2007年第53回では「環境技術と建築デザイン・・・」、同年第54回では「人と環境にやさしい・・・」とのフレーズが見られ、環境建築も追うようになります。歴史的建築物の保存や再生についても、2001年第36回で「東京大学本郷キャンパスを観る（歴史的建築物の保存と再生）」とあり、以降テーマに上げない場合も含め、保存・改修・再生建築物を取り上げています。



建築計画について説明する陶器二三雄さん（第73回）



設計過程を回想する東建夫さん（第74回）

## 見学体験を高める

音楽ホールでの生演奏による音響体験や教会でのパイプオルガン演奏による演出体験など、単に目で見える見学とは異なる、実際の利用状況を体感できるような工夫を凝らしています。



洗足学園の学生さんの協力を得て音響体験をする（第90回）



協力者の演奏でパイプオルガンの響きを味わう（第83回）



大井町パブリックスペースについてシンポジウムを開催（第93回）



川口市火葬施設公園を見学する（第86回）



「小石川の住宅」（「私たちの家」改修）中庭よりみる（第80回）



「上原通りの住宅」日常生活について聞く（第80回）



清水文化会館マリナート 照明ギャラリー（第79回）

## 見学先に見る特色

### 巨匠を迎えて

委員会内部では通称「巨匠シリーズ」としているものがあり、池原義郎さん、原広司さん、横文彦さん、高橋航一さん、阪田誠造さん、香山壽夫さんをお招きし、建築作品を見学させていただくとともに講演もお願いしています。

### 名作住宅

竣工後の住宅の見学は難しいものですが、近現代の建築史を飾るような名作住宅を見学しています。白の家、松川ボックス、五反田の家（上小沢邸）、私たちの家（小石川の住宅）、上原通りの住宅、塔の家、石津謙介邸などオーナーの方々のご厚意の賜物といえます。

### 見学困難な施設

第25回のスウェーデン大使館やカナダ大使館、第65回のインド大使館やベルギー大使館、第38回の川崎市立川崎病院、第86回の川口市火葬施設など見学困難な施設を訪ね、また、第79回の清水文化会館マリナートでは楽屋や照明ギャラリーなどのバックゾーンを見学しています。

### 建築家の自邸

第9回の「ネーサンハウス」内井昭藏邸、「私たちの家」林昌二・雅子邸を皮切りに、「TH-1」朝倉邸、「私の家」林寛治邸、「自邸」阿部勤邸、「トンネル住居」横河健邸、「軽井沢の山荘」吉村順三別邸など多数あります。一般の方の個人住宅の見学は困難ですが、建築家本人の自邸であることや見学者の多くが同業の設計者であることも幸いしているものと思われます。



太陽電池パネルを組み込んだ外装（第54回）



「時間の倉庫」（日本庄商業銀行煉瓦倉庫）（第86回）



川越の「蔵造りの町並み」を歩く（第54回）



栃木県集成材協業協会工場（第52回）



講演する横文彦さん（第59回）



質問に答える高橋航一さん（第69回）



計画のポイントを語る香山壽夫さん（第101回）



自作について語る原広司さん（第51回）



## レポート、報告書

### ・会報誌「Bulletin」掲載見学レポート

JIA 関東甲信越支部の会報「Bulletin」には、第1回より、発行回数が減り紙面が限定されていく2018年の第83回まで、ほぼ毎回アーバントリップの見学レポートが掲載されています。レポートには見学者個人の見学レポートが掲載されています。レポートには見学者個人の見学レポートが掲載されています。

### ・担当コーディネーターによる報告書やWeb上の「報告」

担当コーディネーターによる報告書は第44回以降ほぼ毎回記録が残され、見学内容や担当者の感想などが記載されています。2018年には支部のホームページが整備、改編され、参加者の募集から報告までがパッケージ化されアーカイブされるようになり、2019年の第91回をもって独立した報告書は終了し、HP:Web上の「報告」に集約してまいりました。支部HP上のWeb報告には、見学会参加の方々に寄稿をいただき、たいへん筆に熱のこもった感想などもいただいています。



会報誌「Bulletin」掲載のレポートとコーディネーターによる報告書

## アーバントリップの記憶



### アーバントリップ100回記念によせて

**井上尚夫** (井上尚夫総合計画事務所)  
2000-2001年度  
アーバントリップ実行委員会 委員長

JIA アーバントリップが100回目に到達ということで、大変記念すべきこととなりました。私がこの企画にかかわらせて頂きましたのは、第21回目のアーバントリップからで、そのテーマは「集合住宅と豊かなパブリックスペース」というテーマのもと2作品を案内させて頂きました。案内させて頂いた建築は、私が勤務しておりました内井昭蔵建築事務所の作品、桜台コートビレッジと宮崎台ビレッジ、早川邦彦建築研究室の作品、用賀Aフラットとラビンスからでありました。当時の時代背景は、高度経済成長期にかけ、その後バブル経済から、安定した成長が求められる時代になり、今や住宅空間も量から質へと求められる時代になってきております。

JIA アーバントリップの功績は、建築を実体として捉え、光と陰のある立体的で陰影のある生きた空間として把握させることにあるように思います。アーバントリップの魅力はその辺にあるのではないのでしょうか。続けていきたいところみの様に思います。



### 百間はアーバントリップに如かず

**山本明広** (日建設計 アソシエイト)  
2002-2003年度  
アーバントリップ実行委員会 委員長

昨今 ONLINE 見学会が多くなりましたが、深く心に残らないのは何故でしょう。アーバントリップは設計者と一緒の名作を見学できる良い機会です。是非、時間を作ってご参加されることをお勧めします。企画については毎回テーマを決めて、話題の旬な建築を取り上げることが多かったのですが、会員の皆さんからは住宅を見学したいというリクエストが多かったのを覚えています。しかしながら、住宅の見学はご自宅に大勢押しかけることとなりますので承諾を得るのは簡単なことではありません。このような状況下で軽井沢山荘を見学できたのは幸いでした。吉村順三は「建築の勉強は実物を見なければダメと思う」と名言を残していますが、やはりその場所に赴き、その建築を使っている姿を観察し、実際の空間を味わってこそ建築を学ぶことができるのだと思います。委員会の皆様のご尽力とご後援企業様のご理解に感謝し、この企画がこれからも永く続くことを祈っております。

## ウェビナー、YouTube

### ・ウェビナーの開催：見学体験ビデオ+ライブインタビュー

2020年10月に『『私の家』から清家清を探る』と題し、初めてウェビナーを開催します。ウェビナーといってもパワーポイントなどを用いた講師による単なるセミナーではなく、なるべく従来の見学会形式を踏襲したいとの思いで、事前に収録した、解説者の案内と説明を含む見学体験ビデオの上映と同解説者へのライブインタビューを組み合わせたものとなりました。以降、第94回、95回、96回と、計4回同様のウェビナーを開催いたしました。

### ・YouTube公開

ウェビナー開催に伴い当該ウェビナーの様子を録画し、より多くの皆様にご覧いただけるようYouTube公開することにしました。YouTube公開の反響は大きく、第92回YouTube版の再生回数は2024年11月初め時点ですでに5000回を超えており、93回以降も順次収録と編集を重ね、コロナ以降のリアル見学トリップを含め、現在では13回分を収録、8回分をYouTubeに公開しています。

### ・建築空間体験をより多くの方々に届ける

第92回ウェビナーの参加申し込み視聴者は約350人で、通常のアーバントリップでは、バスの乗車定員の制約から委員を含め50名程度の参加者に限定されてしまうことを考えると、見学体験は映像を通じた間接的なものとなる反面、非常に多くの人にご参加いただくことができました。大勢での見学が困難な個人住宅などの見学についても、ウェビナー方式は有効な方法であると思われます。現在、従前編集済みのオリジナルビデオも公開に向け再編集を進めています。今後はより多くの方々に豊かな建築体験を様々なかたちでお届けできるよう努めてまいります。



オリジナル見学ビデオ 左上：第67回、右上：第78回、左下、右下：第70回



紀行文の閲覧はこちら



動画の視聴はこちら

### アーバントリップ実行委員会

#### 2024年度 委員

赤川鉄哉 飯沼竹一 大川直治  
小高由紀子 君塚和香 佐藤文人  
中村見子 中村雅子 西見高明  
林雅子 芝本敏彦 福西浩之  
南知之 山崎雅雄  
協力：  
(株) 新国際通信社 神村正晴

#### 旧委員・旧事務局等

井上尚夫 今井均 大谷仁  
尾形光男 岡本尚俊 神長一郎  
川東智暢 菊地良一 倉田充  
近藤昇 島崎義治 関口治  
高橋和郎 西澤邦夫 西見高明  
中山梢 長谷川順持 藤吉秀樹  
山本明広



### 2012年度 アーキテツガーデン 東京工業大学 大岡山キャンパス見学会 「緑豊かなキャンパスと地域性を探る」

**安田幸一** (安田アトリエ主宰、東京工業大学名誉教授)  
X (エクストラ)・第80回・第100回 講師 Photo: 稲葉なおと

2012年6月にアーバントリップ実行委員会とJIA 城南地域会との合同開催の東京工業大学(現東京科学大学)大岡山キャンパス見学会:アーバントリップX(エクストラ)の案内役として参加しました。東急大岡山駅と緑が丘駅の二つの駅にまたがり、周辺を住宅地が取り囲んだ大学キャンパスも珍しく、緑豊かなキャンパスは、周辺住民の憩いの場ともなっており、災害時の広域避難広場にも指定されています。

2006年に本館前桜並木のウッドデッキ、2008年に大岡山駅上東急病院と駅前広場、2009年に蔵前会館、2011年に図書館等が完成し、キャンパスの骨格が固まり「開かれた東工大キャンパス」というイメージが定着してきた時期と見学会はちょうど重なりました。それもあってか、建築家だけでなく地域住民含め品川区・大田区の行政の方々も相当数参加くださり、アーバントリップの中でもめずらしい見学会となりました。今も正門周りの整備が進行しており、扉で囲まれた「得体の知れない活動」が見えない従来の大学のイメージを払拭する意味でも、我々学内の建築家にとっても、この見学会は、生で住民の声を聞ける貴重な機会であったと思います。

この委員会の委員として僕が担当した時、テーマにしたのはいずれも個人住宅であった。建築家として仕事をしているものにとって住空間の持つ力を想像することは常のことであろう。なかでも個人住宅におけるその建築家のスケール感は日常的空間であるにもかかわらず、体感してみて初めて納得する事が少なくない。特に自分とは全く異なる設計思想を持った建築家の仕事は新鮮な感覚を覚えることで理解が深まると同時に自身の設計を客観視することにも繋がった。今日では様々な意味でのバーチャルな空間体験が可能となったようだが、建築家として、それで納得してしまう事はまずないと思う。これに反して実体験したリアルな空間は身体化され、自らに宿ることにつながる。常に原寸という意識のもとで日常というリアルで親密なイメージを求めている自身にとって住宅ほど刺激的で貴重なものもなく、特に心身共に仕事で疲れた時など、見学会はもっとも有効なカンフル剤ともなっていたようである。